憲法9条、ほんとかえっていいのかな

T・Mさん(健友会労組副執行委員長)

今思うに私は高校時代、教員たちに守られて、いろんな事を教わった。「私たちは皆一人一人が大事で平等だから」と、入学式・卒業式にも日の丸は掲げなかったし、君が代も流さなかった。必修の世界史、それなのに日本の近代史、ひいては、日本の中国侵略のところばかりを一年間、「日本人として絶対に忘れちゃいけないよ」と、みっちり学んだ時間をすごした。歴史に疎い私だったが、10年も前の話になるが、記憶している。

「今は自由で平和なんだ」って思っていたし、遠い昔の話だったと思っていた。だけど、未だ無くない米軍基地・思いやり予算や、国連無視の戦争。日本の自衛隊もイラクで『人道支援』の名の下に、米軍の武器や燃料の輸送を行い、既に戦争政策といえるものに加担している。そうこうして、国民の多くが軽視していたのか、それともすれ違うことがなく知らない間に、憲法をかえ、本格的に他国の戦争に参加できるようにしようとしている。

別にやりたくもない人殺しに手を染めることになるのだろうか。私なんかは従軍看護師なんかになって、野戦病院みたいなところで血にまみれて、うじ虫まみれの人たちの手当をしていくのだろうか。ただでさえ忙しい今の医療現場からじゃ、医療の整備された今の現場からじゃ、想像できないそんな事態があるんだろう。

今日、小泉首相など、歴代の自民党首相の参拝する靖国神社を見てきた。日本やアジアの2000万人以上の命が犠牲になった太平洋戦争を「大東亜戦争」と呼び、アジア解放のために命をかけて戦ったと美化されて、「忠君愛国」とされている中味を目の当たりにした。教科書が真実を語らなくされようとする中、子どもたちや若い人たちも多く、デートスポットとして訪れている人もいた。あの施設を100回も見なくても、歴史を知らない若い人たちは、正義の戦争もあるかもと思ってしまいかもしれない。

今の状況を多くの人たちが知って、他人事としないで、自分のこととして考えることができるようにしなければと思う。病院が建て替えに入り、東京中の事業所に出向・移籍している健友会の仲間たちは、この改悪の動きをどう思っているんだろう。そもそも知っているんだろうか? 「なんにも知らされないままに戦争する情勢だった」という過去を繰り返さないためにも、勤務をこなすことに精一杯の仲間にも伝えていくことが、本当に求められていると思う。今の事態を知った者たちの果たす役割なんだと。

尻込みしてしまう気持ちもあったりするが、命がけで反戦を訴えてきた人たちがいたこと、国際的にも平和の流れがあることも確信しながら・・・あせらずにそして旺盛に、始めていこうと思う。まず手始めは、高橋家9条の会結成に向けて、トイレに新聞切り抜きを貼ってみよう。

自民党が憲法の全面改定案を発表

**憲法9条の「戦力不保持」、「交戦権の否認」を削除し、
自衛軍の保持を明記して、海外派兵をねらう**

～ 憲法前文から、不戦の誓いもバツサリ削除～

自民党が10月28日に、新しい憲法の草案を発表しました。そこでは、日本国憲法の最大の特徴である「戦争をしないこと」「戦争のための武力を持たないこと」「海外で武力を使わないこと」を定めた部分を削除して、新たに「自衛軍」という軍隊の保持を明記し、「国際的な協調活動」（海外派兵）、「公共の秩序維持」（治安出動）などを行うことができるとしています。こうした内容での憲法改定がねらうものは、何の制約もなく日本をアメリカとともに海外で戦争のできる国にしていくことにあります。9条以外についてもこうした立場から、国民の自由や権利については「責任と義務」が伴い、常に「公益及び公の秩序」に反しないように「享受」すべきだとして、自由と人権に制限を加えることを可能としています。

憲法は国民を縛るものではなく、政府を縛るもの

憲法は国民から国家へ、「戦争するな」「人権を守れ」などと、「政府を縛る命令書」です。憲法は国民にさまざまな自由や人権とともに、「一人一人が大切にされること、幸福を追求する権利」を保障しています。しかし、自民党の新憲法草案では、「公益や秩序」を優先し、憲法を「政府を縛る」ものから、「国民を縛る」ものに変えようとしています。

**6割の仲間が、自民党の改憲案が戦争放棄を削除しようとしていることをまだ知らないでいる
国民の自由や人権を制限する危険な内容については、7割以上の仲間が知らずにいる**

東京民医労ではこの秋、憲法問題での組合員アンケートに取り組むことを提起していますが、これまでの集約では、自民党の改憲案が戦争放棄を削除していることを知っている人は38%、国民の権利や自由を制限しようとしていることを知っている人になるとその比率は更に下がって25%という状況です。こうした傾向は、どの組合にも共通していると考えられます。

国や社会のあり方を定める憲法を改定しようとする動きが強まる中で、改憲を主張する政党がどのように変えようとしているのかすら知らずにいる人が圧倒的に多いという現状は、自分たちのくらしや将来について、目をふさがれているに等しい事態だということができます。

自民党の改憲案に対する賛否が問題なのではなく、その内容すら知らない仲間がたくさんいることが問題なのです。私たち労働者が、自分たちのくらしや将来について自分たちで決定していけるようにするためにも、憲法問題の動きについて知る努力とともに、知らせる努力を強めていくことがますます大事になってきていることを認識して、職場内や組合員どうしでのコミュニケーションを強めていきたいと考えています。

**憲法改悪反対・増税は許さない！ 11・19 国民大集会（明治公園）に参加しよう！
日本医労連の新たな憲法署名の用紙が11月下旬頃に各単組に到着予定**